

総研大組織改編と分子科学コースの設置

総研大は2023年4月より、これまでの6研究科（文化科学研究科、物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科、生命科学研究科、先導科学研究科）20専攻の体制から、先端学術院のもとで20コースを設置する体制へ移行します。それともなっており、物理科学研究科の中で、分子科学研究所を基盤機関としていた構造分子科学専攻と機能分子科学専攻の2専攻は、「分子科学コース」へと統合されます（図1）。

総研大は、大学共同利用機関に専攻をおくことによって、先端研究や大型プロジェクト研究の現場を活用し、特定の分野に集中した研究者集団を教授

陣とする高度な専門教育と研究指導を特色としています。今回の改組は、総研大が持つこのような特色を活かしながらも、研究科／専攻の壁を取り払うことにより、教員・学生の所属に拘わらず複数の基盤機関で研究を実施する共同指導制度による柔軟な学位プログラムの実施など、分野の垣根を超えた学位プログラムを実施することにより、複数の分野が関連する複合領域、新分野創成や異分野融合の原動力となる可能性を秘めた研究者人材の育成を目指すものです。

教学運営における学生教育の実質的な部分は、各コースに設置されるコース委員会（従来の専攻委員会に相当）

が責任をもって実施することになります。学位授与に関しては、コース委員会において実施した学位審査の結果を、領域教育会議（文化科学、数理情報科学、物理科学、生命科学の4領域が設置される）において審議・議決することになる予定です。運営体制においては、これまでは役員と各研究科長が構成員となっていた運営会議に、研究科長に代わって各コースのコース長が構成員となることにより、現場での意見がよりダイレクトに大学執行部と共有されることで、よりスムーズな運営が期待されます。

（青野 重利 記）



図1 先端学術院 20 コースの構成（総研大ホームページから転載）